

小高志

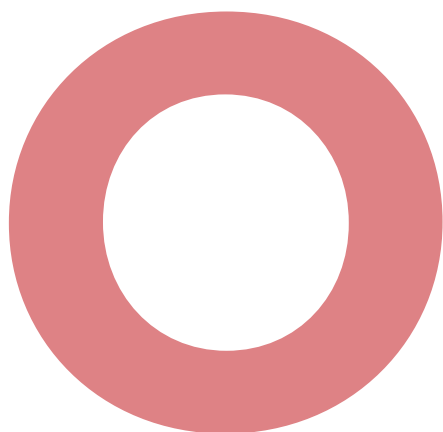
No.6

2016年6月

小高復興デザインセンター



2016春、始動



小高復興 デザイン センター

小高復興デザインセンターが、はじまります。

小高に関心をもつみんなが、

小高での暮らしを支え合い、

未来のために力を合わせる場です。

浮舟文化会館隣の社協会館を借り受けました。

どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

地域福祉座談会を開催

概要

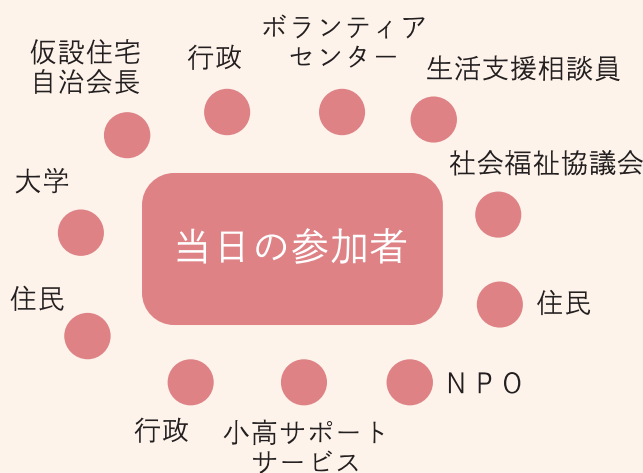
二月二十二日（月）午後、南相馬市役所にて、地域福祉座談会を開催し、様々な立場の約十五名の方にご参加いただきました。今回の座談会の目的は、地域の見守りや生活支援などに携わる組織や個人の間で、情報を共有し、皆で解決に向けて話し合う場をつくることです。

当日の流れ

参加者の方々は、日頃からお仕事として、またボランティアで、地域が抱える課題に取り組んでいます。活動の中で直面している現実や難しさを共有するため、順番に、活動状況や課題、今後の見通しなどについて、お話しいただき、意見交換を行いました。



▲ 座談会の様子。特に、小高サポートサービスについては、質問や「何とか続けられないか」という意見が集中しました。



今後に向けて

今回参加者の方に共有していただいた論点や課題は、すぐに答えが出るものではなく、粘り強く取り組んでいく必要があります。小さなことでも、何か活動を始めたいという方を募集しています。

お気軽にご連絡ください！

▼小高区福祉サービスセンター

四月から、社会福祉協議会が小高保健福祉センターにて再開しました。生活の不安、ボランティアなど、何でもご相談ください。

TEL 0244-44-5970

（午前八時半～午後五時十五分）

▼小高サポートサービス

小高で送迎や暮らしのお手伝いを行っています。電球の交換から買い物・病院の付き添いまで、お気軽にお電話ください。

送迎…百円／五キロ

軽作業…五百円／三十分

TEL 080-8224-1858

当日の内容より

■孤立防止や見守り活動

・仮設住宅で孤立防止のために何をすればよいのか、悩んでいる。(仮設住宅自治会長)
・小高における見守り活動は、家が広く、どこににいるかわからず難しい。監視ではないので、適度な距離感と見守りの両立が課題。(生活支援相談員)

■ボランティア

・ボランティアの約八十五%は県外から、自費で来ている。せっかくなので、ここに手伝いに来るのが楽しみと思ってもらえるつなぎ方を考えていきたい。(ボランティアセンター)

■生活を支える

・車がないと生活が厳しい。買い物もそうだが、電気器具の修理など、ちょっとしたことへの対応が難しい。(生活支援相談員)
・送迎サービスや生活支援は、現状では経済的に自立するのが難しく、ボランティアで行っている。(小高サポートサービス)

■人材不足

・ひとりひとりできることをやって、足りない分を補い合っていきたい。(住民)

小高区福祉サービスセンター所長
災害復旧復興ボランティアセンター長

鈴木敦子さん

南相馬市災害復旧復興ボランティアセンターは拠点を小高区に置き、屋外作業の対象地域を避難指示が解除されていない原町区の一部と小高区にしています。ニーズの主なものは屋内外の片づけや伐採・草刈りです。

仮設住宅へのボランティア受入れは、門戸を広げないようにしています。震災当時のことを聞かれるのは疲れてしまったという住民がいること、仮設住宅を出て住宅を新築したり復興住宅へ移る住民が増えてきたことから「通常の生活」を意識した取り組みに移行している段階です。

避難指示の解除を目前に控えた小高区は住民コミュニティの再生が大きな課題です。震災前の人口に比べて、昨年からの準備宿泊登録者は一割強です。様々な不安が住民の帰還を阻んでいるのです。不安を具体的に洗い出し、解決に向けて動いていかねばなりません。

助っ人としてこの地域に足を運んでくれる方々と共に、地域の再興に向け想いを強く持って社協も歩んでまいります。

高野 時子さん

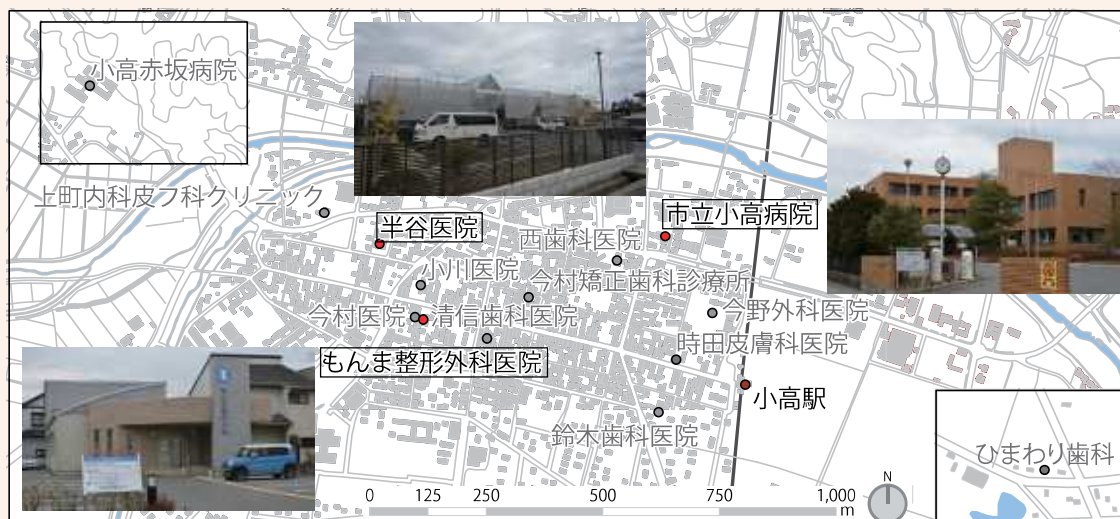
三・一一東日本大震災・原発事故。あれから五年、もう五年、やっと五年。しかし、今も住民の心の復興は進んでいない現状があります。

自宅に戻れないことにより精神的な不安やイラダチを感じている方、五年経過の中で体調不良・体力低下を訴える住民の方が多くなっています。

今巡回訪問している特例宿泊中の住民の方は、顔色が良く、明るい表情で、仮設住宅では拝見できない様子を感じます。先祖代々、生まれ育った家や環境に愛着があり、お金には替えられないことや、言葉に言い表せないものがたくさんあることを、巡回で感じます。

四月から小高事務所が開所され、生活支援相談員も活動を始めました。帰還解除することによって、いろいろな問題や課題がでてきますが、住民に寄り添い、安心して心の支えの支援をし、日常生活が送れるように活動していきたいと思っています。

小高のお医者さん



▲ 2016年4月14日現在再開している小高の医療機関の一覧です。震災前には2つの病院と12の診療所がありました。

病院名	診療日	診療時間	備考	住所
小高病院	月・火・水・木・金	8:45 ~ 12:00 (受付: 8:30 ~ 11:30) 14:00 ~ 17:00 (受付: 14:00 ~ 16:30)	各曜日の医師、午後の休診日等はホームページを確認	小高区東町3-8
もんま整形外科	月・木	9:00-12:00 13:30-15:00	要電話予約	小高区大町1-40-1
半谷医院	火・木	9:00-12:30 14:00-17:00	—	小高区上町2-50

※診療日・診療時間は全て4/14時点(小高病院・もんま整形外科はそれぞれホームページより、半谷医院のみ2016年4月16日福島民友より)

病院・診療所の診療再開

小高病院

診療再開時より二〇一六年三月まで小高病院にて週二日の診療をされている中尾先生によると、再開直後から患者さんの利用があり、夏は熱中症や蜂刺され、冬は風邪で来院される方が多く、特に蜂に関しては緊急に処置を必要とされる方も多いそうです。

もんま整形外科

二〇一六年四月四日から、もんま整形外科が診療を再開しました。二〇〇七年に小高で診療を始めた院長の門馬先生は、ご自身とご家族も被災・避難されており、現在も仙台市から車で南相馬市に通われています。そして門馬先生は、南相馬市の他の医療機関で働く傍ら、既に訪問診療も始められていました。訪問診療を始めた理由は、震災前から勤務されている看護師さんと、二人で出来ることがないか考えた結果とのことで、インタビューに伺った際にも、「まずは出来ることから」と前向きに今後を考えられていました。

す。小高病院の他、南相馬市内の病院にも勤務され、週四日は福島、残りは地元神奈川県茅ヶ崎市での勤務という激務を送る先生ですが、大変前向きな姿勢で取り組まれているのが印象的でした。また病院で事務長をされている高野さんは、震災時は市役所に勤められているそうで「南相馬市医療復興計画」を策定された方でもあります。震災時の様子や、病院の職員の確保における様々な苦勞を伺うことができました。

高校生プロジェクト始動!!

二〇一五年度、南相馬市が実施した「高校生による小高区への提案」事業を、今年度は市と復興デザインセンターの協働で進めていくことになりました。提案に留まらず、高校生自ら地域に主体的に関わり、地域課題の解決に向けて、独自の視点で実践活動を行うことが目標です。

市内の高校に通う高校二年生を中心に、出身も動機も多様な、やる気にあふれた高校生が集まっています。

本格的な活動は四月からですが、準備期間として二回の小高フィールドワークを行いました。今回はその模様をお伝えします。

また、今年度の活動としては、小高に関わる方へのインタビュや復興祭りの出店を予定しています。地域の皆さまのご協力、よろしくお願い申し上げます。



二月二十七日 第回フィールドワーク

塚原や、メンバーの故郷でもある浦尻、大田和を訪れました。中には、初めて小高を訪れるという高校生も。
浦尻では、小野田治江政区長から、昔の風景や良縁のお話などを熱く語っていただきました。大蔵山にて石仏に圧倒されたあと、大田和を重宝しました。大田和のすずばん屋で動物とふれあつた楽しい思い出で盛り上がりしました。

まちろうくへ移動し、小高神社、小高工業高校を訪れた後、アンテナショップ春菜、おだかづらつとほーむに立ち寄りしました。活動の孝に触れ、驚きと共に希望を持たという声が聞かれました。

市役所で一日のまとめをしました。感想を共有した後、小高の良いところをまとめ、さらに魅力にする方法を考えました。まふでくつろいだ後、夜に大田和のホタルを見に行くルートコースの提案や、馬ツア、シンボルキャラクターを作る等、様々なアイディアが提案されました。



▲旧養父大田和屋敷の歴史を語りながら、昔の風景を語っていただきました。



▲おだかづらつとほーむで、おだかづらつとほーむの歴史を語りながら、昔の風景を語っていただきました。



▲春菜に復興祭りの出店を見学しました。数値を見て、いろいろな疑問が湧いてきました。



▲小高神社の鳥居前で記念撮影。今度は、みなで野鳥観察を見学しました。

三月六日 第二回フィールドワーク

二組に分かれ、小高で活動する人々の、生の声を聞きに行くプログラムでした。

一組は、小高を訪れ、佐々木康博行政區長から、震災や震災前の暮らしを伺ったのち、集落センター周辺を視察しました。被災で表彰された天皇杯トロフィーは注目の的でした。

二組は、久米謙三さんの「受舟の里」へ。小高の人で集まる場所を開き、お祭りを観、機織りをしています。高校生たちは久米謙三さんの活動経緯や、かける思いを伺いました。

昼休み 乗馬体験！

一組は、商工会女性部が浮舟ふれあい広場で毎週末開く「ひまわりカフェ」へ。越後屋の浦原まことさんと話したのち、双葉屋旅館の小林友子さんから、活動への激励をいただきました。

二組は、理容カトリック。震災後一年、水の出ない中で営業を再開した苦勞を伺いました。その後、森山真士さん主催のベッカノンへ。IT技術を生かした帰還支援アイデア発表を見学しました。



▲佐々木行政區長の「まちろうく」を聞きながら、昔の風景を語っていただきました。



▲浮舟の里へお参りし、お祭りの様子を見学しました。



▲「受舟の里」の主催者、久米謙三さん（バカチヤウ）の活躍についてお話を伺いました。

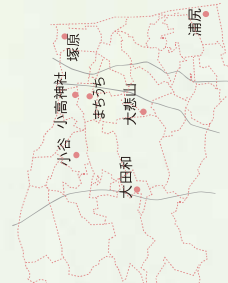


▲近所は復興祭りの会場、お祭りを楽しみました。



▲おだかづらつとほーむで、おだかづらつとほーむの歴史を語りながら、昔の風景を語っていただきました。

フィールドワークで回った小高の場所



高校生の感想（第二回）

- ◆ 震災の場面に驚いた（小高）
- ◆ 震災や震災を見て、歴史を感じた（小高）
- ◆ 機織りをする大蔵山を知った（受舟の里）
- ◆ 小さなことでも、自分にできることを楽しんでやるのが大事！（受舟の里）
- ◆ 地元の人々の生活や歴史の絆で心を癒やされる、地元の大切さを感じた（双葉屋旅館）
- ◆ カフェを運営するという気持ちが、話を通じて伝わってきた（ひまわりカフェ）

高校生スバー 募集中！

ぜひ一緒にやりましょう！



興味のある方は、募集紙の連絡先か
odake@dl.tokyo.ac.jp まで！



上浦の江井鑄造所の桜

2016年6月ごろより、
社協会館（浮舟文化会館となり）
でオープン予定です！
ぜひお立ち寄りください。

社協会館から 小高復興デザインセンターへ！

小高区役所向かいの社協会館は、町民らの基金や行政区の会費等により、一九八二年に落成しました。二階のお座敷を利用したり、数々の思い出のつまった場所です。

今回、小高復興デザインセンターの拠点として社協会館を使わせていただくことになり、改装中です！



小高復興デザインセンター

二〇一六年春、設立しました。住民・行政・外部をはじめとして、小高とつながりたいみんなが協働し、実践していく場です。

東京大学 工学部都市工学科 地域デザイン研究室

03-5841-1845 odaka@td.t.u-tokyo.ac.jp

南相馬市小高区地域振興課

0244-44-6716

協力：仲光寛城（ナカミツデザイン）